



なきごえ



1991

3

大阪市
天王寺動物園協会

釧崎直佑



「ペット」と云うと近頃では「犬、猫は勿論、モルモット、熱帯魚、小鳥達、爬虫類や野生動物まで仲間入りして来ました。また、それらの動物を「コンパニオンアニマル」と呼ぶ人達も増えて来ました。

敗戦で荒廃した日本も、わずか40年余りの間に立派に立ち直り、いつの間にか世界の経済大国として認められる様になりましたが、国民生活が豊かになり、社会経済の仕組みも欧米並みになって来ますと、一方では色々な影響も出て来ています。核家族化、成人病の増加（今や小学生にもその症状があらわれているとも云われています）、長寿国となった半面、その老令化社会の問題、出生率の低下など、先進国共通の新しい歪みが出て来ています。

コンパニオンアニマル（伴侶動物）と云いますと、ただ心情的に可愛いがり、その習性を楽しむだけでなく、日常生活の中でかけがえのない心の支えとなり、生活の利害を共にしているものであり、それは盲導犬であり、聴導犬であり、猟犬、警察犬、「ペット」もその範疇に入ることでしょう。

人が動物を飼いたいと云う思いは、それぞれ違いはありますが、心のやすらぎ、動物に対する親近感、人間関係の融和、情操教育そして生命の尊重が主な理由として挙げられると思います。経済社会の発展は豊かな物質文明をもたらしてはくれましたが、日常生活はかえって多忙となり、心のゆとりが少なくなり、レジャーですら楽しみ方にとまどいを感じる場合があります。例えば旅行も目的地までの情趣は

なきごえ3月号もくじ

動物と私 2
ふ化したハワイガン 3
動物園生活を振り返って 4・5
アメリカ動物園訪問記 6・7
動物園グラフ・動物園日記 8・9
ケンちゃんの好きやねん動物園 10
動物園ニュース 11

交通機関の高速化で削られ、その情趣も都会化と雑踏にガッカリすることもあります。また一方テレビ、その他の報道による情報の過多は余程しっかりした観察力がないと、かえって判断を誤るのではないかと時として危惧することもあり、殊に生命が、余りにもあつけないと感じられ、日常茶飯事のように報道される死亡事故の氾濫は、生命の尊厳を薄れさせて行く様な感じさえあります。社会文化の高い国ほど動物愛護に深い関心を持っていると云われますが、我が国も昭和48年「動物の保護及び管理に関する法律」が公布され、愛護運動も年々盛んになり、本会も大阪府獣医師会と協力し合い府市の後援を頂き「動物フェスティバル」を毎年開催し愛護運動の普及に務めております。

私共開業獣医師は動物の診療を通じて可愛いだけでなく、動物の「しつけ」と他人に迷惑をかける基本的なマナーを理解し実行して頂くことであり、核家族化の進むなか、生命の尊厳がもっとも身近かに体験出来る良い機会であると思っています。私見ですが現在、人の死はほとんどが病院か地方の故郷か自分自身から隔たった処で起り、そして葬儀と云う「セレモニーで始まり、その後もセレモニーで流れ去る」様な気がしてなりません。しかし自身が飼っている「ペット」がその生命の火を静かに消して行く時は、そのほとんどがつぶさに見ることが多いでしょう。死が如何に厳肅なものかつぶさに理解されることと思います。生命、死の尊厳を理解することが、生きものを育ていつくしむ心がその人の将来いかな様な感性を持ってくれることでしょう。私共は診療を通じ、人々の精神衛生に少しでも寄与出来ればと常々考えております。人と動物とのかわりには有史以前の繋りであり、動物たちによってもたらされる色々な恩恵を思う時、私達は地球上に住む生きものとして「みんな友達、地球の仲間」の標語を大切にしていきたいと思っています。

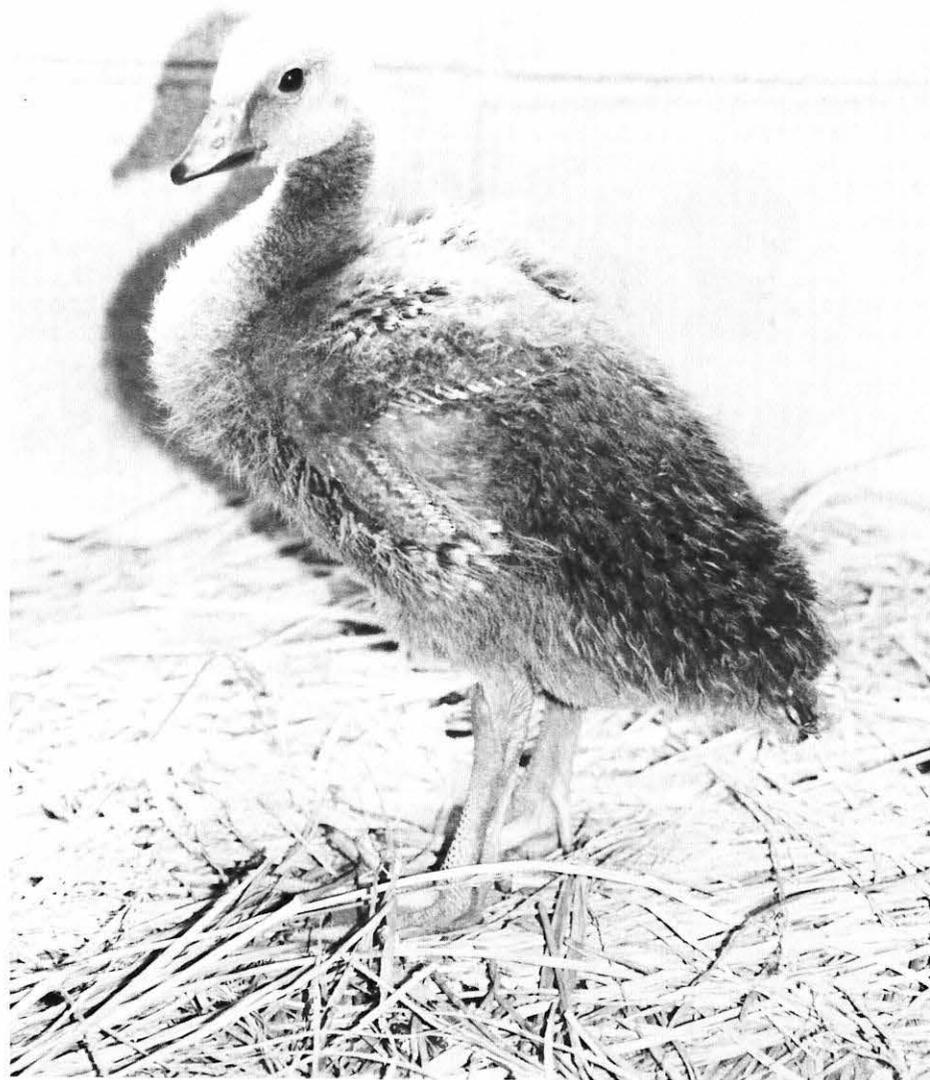
社団法人大阪市獣医師会会長

表紙の写真説明

“コクチョウ” (Cygnus atratus)

オーストラリア大陸南部とタスマニア島が原産地で、1789年にヨーロッパに輸入され、ブラックスワンと名付けられました。

夫婦仲がとくに良く、オス、メスで抱卵します。(撮影：大野 尊信)



“ふ化したハワイガン”

1月3日にハワイガンが孵化しました。今年、初めてパードケージで孵化したもので、これから、繁殖期には順次かわいい鳥達が見られることでしょう。(撮影：土谷正道)

中川 志郎

1990年7月31日、上野動物園長を最後に38年間にわたる動物園生活にピリオドをうちました。私が初めて上野動物園に職を求めたのは昭和27年、戦後の混乱から世の中がやっと平静をとりもどし、動物園そのものも復興期の最中であった頃です。

今、動物園生活を改めて振り返って見ますと、この30年間は、社会のめまぐるしい変動の中で、動物園も大きな変貌を見せた期間であったように思います。

10年ひと昔、という言葉がありますが、確かに動物園の変貌の波もそのような周期性をもって訪れたような気がします。

このたび貴誌“なきごえ”から寄稿のご依頼がありましたので、昭和20年代から60年代にかけての変



昭和32年夏 ライオンの子ビリーと筆者

化を私なりに意味づけたいと思います。

動物園復興の時代（昭和20年代）

私が上野動物園に入ったのは昭和27年、戦後の混乱はほぼ影をひそめ、動物園も外見的には戦前の活況をとりもどしはじめた頃です。事実、動物園のシンボルともいべきゾウが昭和24年には相次いでタイ（花子）、インド（インディラ）から親善使節として寄贈されていましたし、昭和25年には上野動物園の復活祭が華やかに行われています。

全国的に眺めて見ましても、新しい動物園が続々と誕生しており、現在、日本動物園水族館協会に加盟している動物園だけをとりあげてみてもおよそ20園が昭和20年代に建設されたものです（神戸、横浜、札幌、福岡など）。

動物園ブームともいべきこの傾向は、戦争の悲惨さをいやというほど味わった人々が、平和の象徴を動物園に求め、動物たちの和やかな姿にそのあかしを求めたという背景があったと思われます。事実、上野動物園長であった古賀忠道氏（故人）が動物園復興の旗印として掲げたモットーは“Zoo is the peace、動物園は平和そのものである”だったのです。

このモットーは、国際動物園長連盟の当時の標語だったのですが、古賀園長は、日本にこそこれがふさわしいと思われたのです。

私が動物園に入った当時、戦中、戦後を動物園ですごした飼育係の方がまだ勤務をつづけており、折りこふれて聞く戦争末期の動物園の悲劇は、このモットーが決して表面的なものでないことを感じさせてくれました。

そのひとりに渋谷信吉氏がいます（故人）。

私が入った当時、彼は大変に酒が強く、宿直の時など必ずといってよいほどよい機嫌になっていました。園内の寮にいた私は、時々その相手をさせら

れ、下戸のためにへきえきしたのですが、あとになって渋谷氏自身が戦争末期までキシツバの信ちゃんといわれるほどの甘党であったことを知りました。

戦争末期の動物の処分は、いかに時局とはいえ、それまで動物たちを守って来た飼育係の人々の心をそれほどまでに苛んでしまったのです。昭和27年、私は上野動物園の動物で組織する移動動物園に参加して全国を巡回し（6月8日～10月31日）、ゾウやライオンに歓声を上げる子供たちの姿に、平和と動物園ということに身に染みて感じたのです。

動物収集拡充の時代（昭和30年代）

動物園の新設は、この時期になっても全国的に相次ぎ、各地に動物園や水族館が誕生しています。犬山モンキーセンター、日立、徳山、多摩、帯広などを含め総数はやはり20園に達しています。

この傾向を受けて、動物たちのコレクションも種類、頭数共に多くなり、戦前をはるかにこえる数になっています。

上野動物園を例にとって見ますと、昭和20年（終戦時）が97種、340点という淋しい動物で、しかもブタやアヒルなどの家畜がはばをきかせるという状況でしたが10年後の30年には313種、1426点更に40年には499種、1980点という急速なびを示しているのです。



戦後初来日のチンパンジービル（1991年現在健在）

戦前の最大のコレクションが昭和14年の339種、1033点で、そのために開園（1882年）以来57年という歳月を要したことを考えると、戦後の収集がいかにスピーディであったかが分ります。

そのさきがけは、昭和26年から27年にかけて上野動物園の林寿郎氏（故人）が単身アフリカにわたり、キリン、サイ、カバなど36頭の動物を直接収集したのですが、その後の動物収集の多くは動物商といわれている業者によってなされるようになって行きました。

当時、動物病院で獣医として働いていた私は、この新入り動物たちの世話にあけくれることになり、特に日本の動物園に初来日のゴリラ（ブルブル、ムブル、ザーク）には大分神経を使いました。初めてのこともさることながら当時は繁殖はおろか飼育することさえ技術的に完成しているとは云い難い状況だったからです。ゴリラの成長曲線がチンパンジーやオランウータンにくらべて極めて急カーブで上昇（誕生から10才位まで）することを知り、必要蛋白量をいかに供給するか、を真剣に検討したのもその頃です。

幸い、オスのブルブルは現在でも健在ですが、メスのムブルはリューマチを患って死亡し、繁殖には

いたりませんでした。ゴリラの繁殖はメンタルな部分が必要な影響をもつことと分ったのは、それからずっとこのことです。いずれにしても、昭和30年代の動物園はコレクションの増加に大きな努力が払われていた時代で、動物園数の増加がそれに拍車をかけ、珍獣指向の傾向へと傾斜する背景になっているように思います。

飼育技術近代化の時代（昭和40年代）

動物のコレクションが増え、今まで経験のない動物を飼うようになりますと、新たな飼育技術が要求されるようになります。

ゴリラやオランウータンなどの霊長類、ボンゴや各種のレイヨウ類、ツチブタやタテガミオオカミなど従来の飼育技術では飼育困難なものが次々と入って来たからです。

新しい動物の数多い導入は、その飼育技術の導入にもつながり、それは動物飼育全般にも波及効果を及ぼして、飼育技術の近代化に大きな影響を与えることになります。



チンパンジーのアリ塚

その典型的な一例はアメリカ・フィラデルフィア動物園で創始された飼育野生動物のための人工飼料でした。ここでは、従来の動物飼料に徹底的な栄養学的な検討を加え、その欠陥を指摘、それを補うための人工飼料を開発したのです。

ケーキ又はベレットと呼ばれたこの人工飼料は画期的な成功をおさめ、死亡率の低下と繁殖率の増加に著しく成果を上げました。この成果をいち早くとり入れ、更に改良を加え、野生動物の飼育飼料として完成させたのはスイス・パーゼル動物園です。

私は昭和44年、東京都派遣の海外研修生としてパーゼル動物園に研修留学していましたが、この時に、人工飼料の推進者であったワッカーナーゲル博士に会い、人工飼料の利点について直接学ぶことができました。

帰国後、このパーゼル方式は、上野動物園にとり入れられ、現在の動物園飼料の主流を形づくるようになったのです。

近代化は、動物舎の建設の面にも急速に浸透しました。建築技術の進歩と建築材料の多様化は、動物舎を従来の考え方から、見やすさと衛生面を重視する建築物に変えて行きます。野生動物の多くが、細菌感染に弱いこともあって、それを防除するためのガラス、コンクリート、床面塗材などが次々に新しくなり、細菌感染や寄生虫による被害は眼にみえて少なくなっていくたのです。

動物舎が、一見ビルのような近代建築に姿をかえ、

内装もガラスとタイルというクリーンなイメージに変わって行ったのもその頃です。

確かにこれは、病気を防ぎ、動物たちを長生きさせるという点では成功を収めました。

飼料の改善と動物舎のアイデアの変化は、従来の難獣といわれた動物の飼育を可能にしたといえます。

飼育技術見直しの時代（昭和50年）

飼育技術の近代化によって、完成に近づいたと思われた野生動物の飼育にも、ひとつの落とし穴がありました。それは、栄養学的に検討された飼料を与え、動物的に検討されつづけたビルの動物舎を完成させてもそれだけでは動物の肉体的な部分を満足させるだけであって、「その心を考える」点が欠落していたからです。事実、これらの環境で飼育された動物たちが、アブノーマルな行動をする事例が次々と見られるようになったのです。

これは世界的な傾向として問題となり、動物の心を考える飼育が提唱されるようになりました。Zoo enrichment といわれるのがそれで、飼育動物の心理を重視する施設が求められたのです。

生活環境としての土、緑、水が、彼らの生活にとって、心理的に必要であり、動物園環境の中でも彼らのもつ本来の習性行動が完結できる条件が与えられなければならないということです。

動物もまたパンのみにて生きるにあらず、という当然のことが、やっと動物園の本流になったのです。これは、その背景として動物行動学の発達が大なる影響を及ぼしたことも事実ですし、あわせて動物福祉思想の普及を見逃すことができません。

動物保護増殖の時代（昭和60年代）

このところに来て、動物園の社会的役割分担が大きく変わって来



テレビを見て余暇をすごすゴリラ

環境教育の場としての機能が大きく求められるようになったからです。

野生動物の絶滅があらゆる予測をこえて急速に進む現状の中で、動物園が従来積み上げて来た飼育増殖の技術が、その歯止めとして大きく機能することが求められています。

社会の変化につれて動物園をまた変化して行きます。動物園が社会の中で適切な役割分担を果すためには、それを的確につかまえ、常に研究の姿勢を維持することが必要です。

60年代のあとの新しい動物園に大きな期待を寄せるゆえんもそこにあります。（前上野動物園園長）

アメリカ動物園訪問記

なきごえ28(3),1991

§ はじめに

昨年暮れに機会を得て、アメリカの5つの動物園を訪ねることが出来ました。アメリカといってもカリフォルニアと、そのお隣のアリゾナの2つの州だけでしたが、初めて訪ねたアリゾナの動物園はとてユニークで楽しい動物園でした。誌面の都合で走り書きになるかも知れませんが、5つの動物園について簡単にご紹介したいと思います。

§ サンディエゴ動物園

この動物園は何度訪ねても、そのコレクションや施設の立派さに感心させられます。また、来る度に何か新しい施設を見ることが出来る動物園でもあります。今回は3年前に完成したタイガー・リバーを見ることが出来ました。

ここはスマートトラがメインに展示され、川の上流から下流に向かって歩くうちに、スマートトラが生息している東南アジアに分布する動物も合わせて見ることが出来るように配置された展示場です。動物舎から動物舎への通路はうっそうとした緑に被われ、まるでジャングルの中を歩いているような錯覚に陥ります。舎内にもふんだんに植物が植えられ、その動物が生息する場所そのものを動物と一緒に動物園に運んで来たかのように思わせるバイオーム展示の技法が用いられていました。この為、まるで野生の中で動物を見るような錯覚にとらわれました。



ミストの垂れ込める池に浮かぶカモ達 (サンディエゴ動物園)

また、観覧通路や動物舎内にミストの発生装置が設けられ、湿気の多いジャングルの雰囲気がうまく醸し出されています。ミストの垂れ込める池に浮かんだカモの神秘的な姿は感動的です。その上、ガラスやピアノ線を展示に多用し、動物をほんの眼と鼻の先で見られるようにしたり、大変見易くしたり、といった工夫が随所に見られました。

カモの池の向かいにはガビアルを展示した池がありました。ここも滝が作られてあったり、池の淵をうっそうとした緑で被ったり、とてもうまくジャングルの雰囲気を再現しています。そして、池の中央で仕切ったようにガラス面が設けられていて、観客は水中も観察出来ます。私達はワニを説明する際に、ワニは水面に浮かんでいる時、鼻と眼が一直線に並ぶようになっていて、こうすると最小限の努力で呼吸が出来、また、うまく身をひそめることも出来るのです、などと説明していますが、水中から見ることによって、このことが一目で分かります。正に百聞は一見に如かず、でした。

§ サンディエゴ野生動物園

この動物園は敷地が728haと天王寺の70倍近くも

ある広大な動物園です。殆どの動物は広いセクションに放されていて、観客はモノレイルに乗って園内を回りますが、一部の動物は普通の動物園のように動物舎で飼育されています。広大なセクションで放飼されたキタシロサイ、アラビアオリックス、モウコノウマといった珍獣を見るのも楽しいことですが、この名物は何と言っても動物のショウでしょう。時間を少しづつずらして園内各所で様々なショウをやっています。今回はバードショウを見ました。

まず音楽と共にコンゴウインコの飛翔から始まります。ただ飛ぶだけではありませんが、羽を拡げると1.5m以上もある大きなコンゴウインコがお客さんの頭をかすめるように何度も旋回するので、お客さんはキャーキャーワーワーと大喜びです。

次いでキエリボウシインコとヨウムの物真似大会。「オウム返し」という言葉があるように日本ではオウムの物真似は同じ言葉を繰り返すことと思われていますが、このオウム達はもっと高度に訓練されていて、例えばトレイナーが「これから物真似を始めよう」と話しかけると、オウムは「準備はもう出来てるよ」と答える、という具合に会話が出来ます。この2羽の物真似のレパートリーはとて広く、イヌ、ウマ、ニワトリの物真似から始まって、咳、鼻をかむ音、笑い声と延々とやり、歌まで歌ってくれました。

驚いたのはこの次のエジプトハゲワシのショウでした。このハゲワシは道具を使う鳥として有名なのですが、この行動はダチョウの卵を食べる時に見られます。つまり、ダチョウの卵は殻がとても厚く、少々では割れないのですが、この鳥は石を探して来て、これをくわえ上げ、反動をつけて何度も何度も卵にぶつけます。こうして



ダチョウの卵に石をぶつけるエジプトハゲワシ (サンディエゴ野生動物園)

ダチョウの卵を割り、中身を食べるのです。この行動をショウにしてお客さんに披露していました。お客さんは道具を使えるといわれているエジプトハゲワシが実際に石を道具として使う所が見られ大満足です。これも百聞は一見に如かずの実践でしょう。

§ リード・パーク動物園

9時半の開園と同時に入園しましたが、お客さんに動物の説明をするドーセントの方々がもう園内の各所で待機していました。

この動物園のシンボルマークはオオアリクイですが、そのいわれについて聞いてみました。実はこのオオアリクイは全米でも有名な繁殖実績を誇っているそうです。既に十数回繁殖し、3世まで誕生しているとか。

この動物園はツーソン市の真ん中にあり、面積は

なきごえ28(3),1991



繁殖良好なオオアリクイ (リード・パーク動物園)

狭いのですが、動物地理学の概念を根底に動物舎が配置されています。そのせいか広い放飼場での混合飼育がいくつも見られました。例えばインドゾーンではアキシスジカ、ニルガイ、オオヅル、インドガン、ブラックバックが飼われ、アフリカゾーンではグレビーシマウマ、ダチョウ、カシムリヅル、アフリカハゲコウが混合飼育されている、といった具合です。同居出来ないコビトカバ、キリンはその隣の放飼場で飼育されていました。特に小鳥やカモ類などではともすれば地理に関係無くあちこちの地域のもが同じケージで雑居飼育されがちですが、ここではそんなことは決して無く、キッチリと分けて飼育されていました。特にアフリカの池ではアフリカ産のカモ類だけではなく、魚までもがアフリカ産のティラピアで、その徹底振りには本当に感心させられました。ただ、近くに空軍の基地があるらしく、ひっきりなしに園の上空を爆音をあげて通過するジェット機には閉口しましたが。

§ アリゾナ・ソノラ砂漠博物館

ツーソン市内から車で1時間ほどの所にあるこの博物館はソノラ砂漠の自然史をもれなく展示するというユニークさで以前から注目されている博物館です。その上、3年前にデイヴィッド



デイヴィッド・ハンコックス館長 (アリゾナ・ソノラ砂漠博物館)

ド・ハンコックス氏を館長に迎えました。氏はイギリス人の建築家ですが、シアトルのウッドランドパーク動物園の一連のバイオーム展示やメルボルン動物園のゴリラ舎のバイオーム展示を設計し、注目を集めている方で、正に動物園におけるバイオーム展示の先駆者と呼べる人物です。この方を館長に迎え、この博物館が今後どのように発展して行くか、とても興味深いところです。

門で来意を告げ、館長に会いたい旨伝えました。日本からは連絡を取っていませんでしたので、会ってはもらえないかも知れないと思っていたのですが、すぐに館長室に通してもらえ、お話を伺うことが出来ました。今、博物館の改造計画を練っているところだそうですが、不況のために資金集めに苦労してい

るとのことで、持参した天王寺のガイドブックを見せ、ここ数年、新しい動物舎がいくつも出来たことをお話しすると実に羨ましそうにしておられました。

最初に述べましたように、ここはソノラ砂漠の自然史を展示する博物館です。ですから、展示物は実に多岐に渡っています。この地方に棲む哺乳類、鳥類、爬虫類はもちろん、両生類、魚、昆虫類、化石、鉱物、植物から地史に到るまで展示され、敷地内にある洞窟まで展示物になっている上、洞窟内では現在も成長を続ける鍾乳石や、そこに生息しているサンショウウオまで展示されていました。この博物館で1日過ごすことにより、この地方の自然史が100%理解できるという仕組みです。

野生での生息数が50頭以下となり、絶滅が大変憂慮されているメキシコオオカミやピューマ、アメリカカクログマ、サバクビッグホーンは立派なバイオーム展示で飼育され、見応えのある見事なものでしたし、出口近くではサボテンをモデルにした収斂進化まで展示され、本当に満足させられました。

§ フィーニクス動物園



オープン2日目のマントヒヒ(右)、マンドリル(左)舎 (フィーニクス動物園)

フィーニクス動物園は絶滅の危機に瀕していたアラビアオリックスの繁殖に世界で初めて成功し、このカモシカを元の生息地に戻す礎を築いたことで世界的に知られた動物園です。アラビアオリックスはこの動物園のシンボルマークになっています。現在も十数頭が飼育されています。このアラビアオリックスや野外で飼育されていた大きなアメリカアリゲーター、1000羽以上の野生のカモが羽を休めていた池、障害児にも配慮の行き届いた子供動物園、広大なアフリカ草原舎と印象に残ったものは数多くありますが、中でも最近作られたアリゾナ・トレイルという一連の動物舎は印象深いものでした。ここにはアリゾナに生息する様々な動物がバイオームを生かした展示の中で飼育されています。各動物舎は決して広くないのですが、入園客は、限られた空間の中ではありますが、立派に再現された自然の中で身近な動物が野生そのままに生活する姿が見られ、とても満足そうでした。

§ 終わりに

駆け足で5つの動物園の紹介をしましたが、誌面の都合でご紹介出来なかった点も多々あります。それらの点は今後また別の機会にご紹介したいと思います。今回の訪問で得られた成果を今後の動物園の運営に少しでも役立てられればと考えています。

(飼育課 主査:長瀬健二郎)

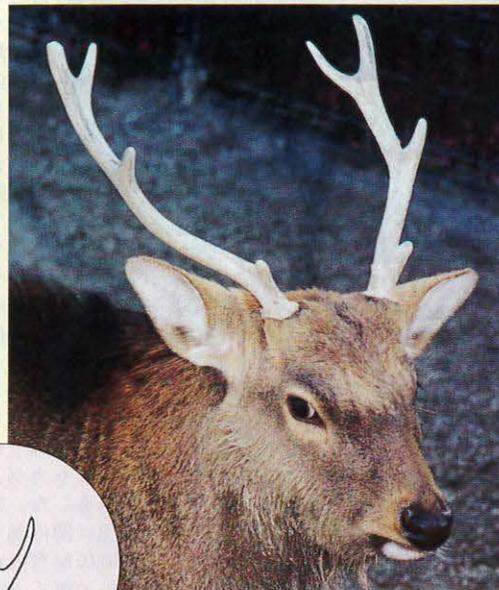
動物園グラフ

“天王寺の角のある動物”

当園では、エランド、キリンなど偶蹄類で11種、奇蹄類でクロサイ1種の有角動物がいます。一方、鳥類ですが、羽角とか耳角とか呼ばれる冠羽を持つものがありますので、今回はそれも加えて角としました。

(角の模式図は「動物の飼育と分類：偶蹄類I」より抜粋)

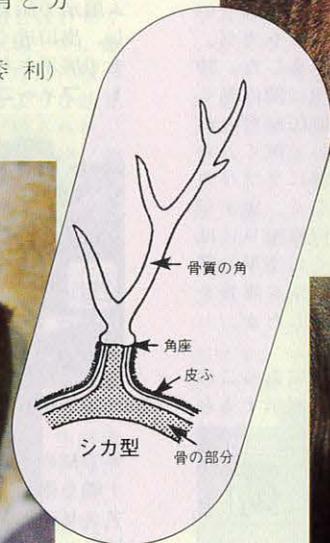
(撮影・文：森本 委利)



▲ニホンジカ：シカ類は枝角と呼ばれ、雄だけ生えますが、生後1年間は角がなく、その後第2次性徴として角が生えはじめ、毎年生え代わります。



▲キョン：成獣では2本の枝になりますが、まだ若いのか、下の短い方の枝がはっきりしません。キョンは角が短かわりに、犬歯が発達しています。



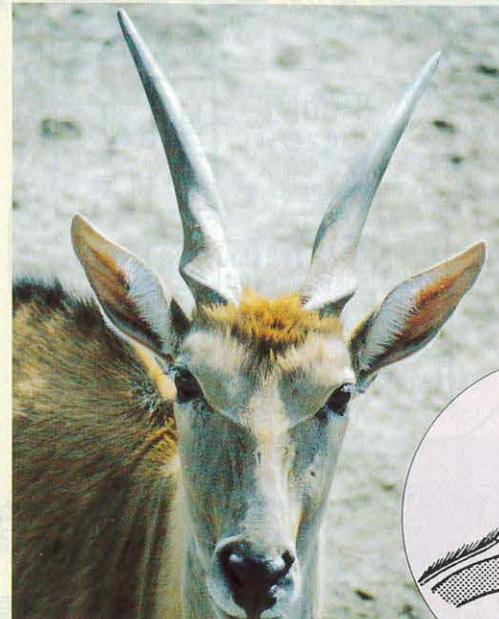
▲クロサイ：サイの角は、皮膚が角化したもので、爪のようなものです。ですから、折れても再び生えてきます。全部角質で、中に芯はありません。

どいため断翼手術を行いました。

- 1 / 5. アライグマが交尾をしました。
- 1 / 6. ユリカモメを1羽保護しました。キーウィの体重測定を行いました。
- 1 / 8. ゴイサギ、シロハラ各1羽を保護しました。ワシミミズクが今期初めて産卵しました。
- 1 / 9. フクロウを1羽保護しました。
- 1 / 11. 当園ネコ科動物の一斉検便を始めました。
- 1 / 13. フタコブラクダの左前肢の一部が化膿したため治療を開始しました。
- 1 / 14. 1/11から始めたネコ科動物検便検査で寄生虫の寄生が判明した動物に駆虫薬を投与しました。
- 1 / 15. 環境庁主催の全国一斉野生ガンカモ調査を

12月・1月の動物園日記

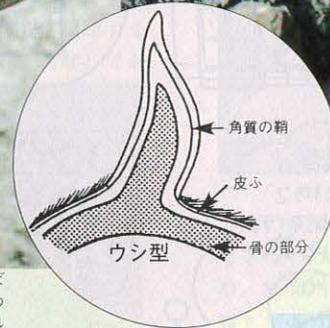
- 12 / 29. 本日より年末年始の休園に入りました。
- 12 / 30. アミメキリンの母子(ハルミ、リントロウ)と父親(ナガヤ)の同居のためまずハルミとナガヤの同居を試みました。エミューが5個目の卵を産卵しました。
- 1 / 2. 年末年始の休園が終わり本日より開園しました。「動物映画の会」を開催しました。
- 1 / 3. 正月行事もちつき大会を開催しました。鳥の楽園で12/4に産卵したハワイガンの卵が人工孵化しました。
- 1 / 4. 昨年12 / 23保護したオナガガモの骨折がひ



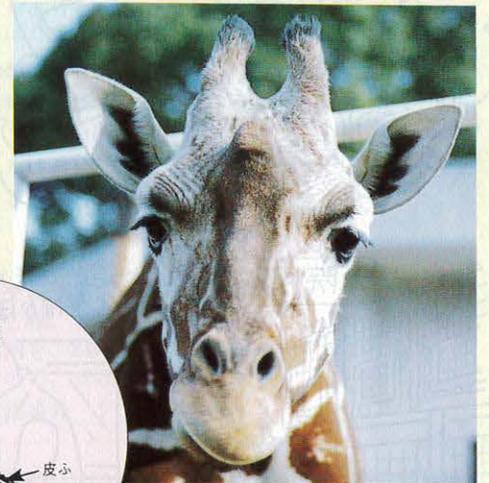
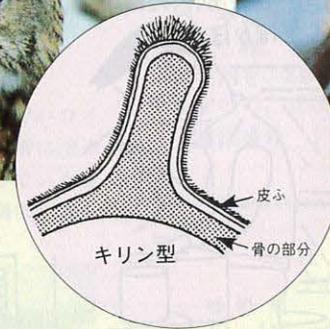
▲エランド：ウシの中間の角は、洞角と呼ばれ、角質の鞘と骨の芯からなり、生え代わることはありません。本種は上方によじれながらのびます。



▲バーバリシープ：本種もウシ型に含まれ、頭の横から外側に向かって、うずまき状に後方にのびていきます。繁殖期は雄どうしの激しい角つきあい、ときからませあいを見ます。



▲ワシミミズク：角でも羽による角です。フクロウの仲間にミミズク類がありますが、その多くのもにこの角状の羽角があります。大した役割はしていないようですが、立てたり横に倒したりします。



▲アミメキリン：キリンは生まれたときから角をもっています。シカ類やウシ類の角と違い、おそらく両方の祖先がもっていた角が、そのまま残ったのだろうと考えられています。

- 行い、園内でマゴモ1羽、カルガモ6羽の飛来を確認しました。
- 1 / 16. オランウータンのサブが風邪をひいたので投薬を開始しました。ワシミミズクの2卵目、3卵目の卵を人工孵化のため孵卵器に入れました。
- 1 / 17. エミューが11個目の卵を産卵しました。
- 1 / 18. 神戸市の王子動物園の獣医師1名、飼育係1名の方が研修のため来園されました。
- 1 / 20. 1/16に孵卵器に入れたワシミミズクの卵の有精を確認しました。
- 1 / 21. ホッキョクグマの赤ちゃんの元気な姿を初めて確認しました。ツル舎で展示していたモモイロペリカンを

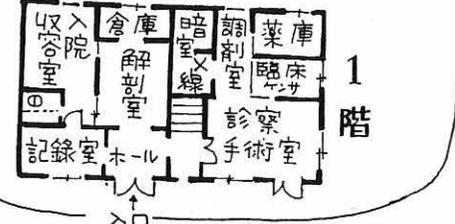
- 鳥の楽園に移動させました。
- 1 / 23. ハイイロカンガルーの赤ちゃんが初めて母親の袋から顔を出しました。
- 1 / 24. トラツグミを1羽保護しました。
- 1 / 25. 近畿地区の動物園獣医師の勉強会を開催しました。
- 1 / 26. 1/4に手術したオナガガモを鳥の楽園に放鳥しました。
- 1 / 27. ラマの赤ちゃんが誕生しました。名古屋市東山動物園の職員の方2名が来園見学されました。

いま、天王寺動物園では6人の獣医さんが園内の動物たちの健康を守っています。



平面図

どの室も見せてもらいました。機器類がそろっていて理科の実験室のようでした。



この病院は哺乳類、鳥類、爬虫類と科が分れていないので獣医さんは「ぼくたちはオールマイティー(万能)科です」と笑っておられます



診察手術室 年間に約500件の動物診察治療するそうです



入院収容室 天窓から自然の光が入って明るいいし、床はヒーターでほかほか

動物は自分の容体を言えないので飼育係の人がその役目をするわけ。獣医さんは診察から手術、検査、くすりの調剤。それにX線をとったり、超音波で画像したり...と忙しいこと



2階の討議室(30名収容)では飼育研究会や獣医連絡会があります。映画やスライド映写もできます。夏休みにはサマースクールにも利用するそうです。窓が広くて園内がよく見えます。樹木の向から美術館も見えました。なんとホッとしました。



臨床検査室 ほかには病理検査室や細菌検査室がある

動物園ニュース

§ ホッキョクグマの赤ちゃん順調に成育中

昨年11月30日、ホッキョクグマの赤ちゃんが1頭生まれました。11月3日から産室に雌のみを閉じ込め、飼育担当者は獣舎内には立ち入らず、給餌をやめ、給水のみにして、出産を待っていました。マイクロフォンによる音のみの観察により、11月30日の朝、遂に赤ちゃんの声を聞き出産を確認しました。それ以後もマイクロフォンによる観察を続けていましたが、本年1月21日、担当者が母子の状態を確認するため、初めて獣舎の中に入りました。当日は赤ちゃんの姿を見ることはできませんでしたが、翌日、真白でネコ位の大きさの元気な赤ちゃんを確認することができました。現在、子供は順調に成育してお

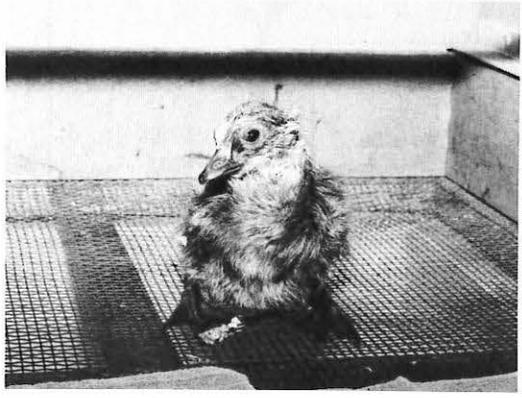


生後55日目の子供と母親ユキコ

り、3月末頃には一般公開できるものと思われま。なお、この子供が順調に成育すれば、日本では9例目の成功となり、当園では2回目の成功となります。今のところ、本州以南では、当園でしか成功例がありません。

§ ハワイガンのふ化

昨年12月初めバードケージ“鳥の楽園”でハワイガンの営巣産卵がみられましたが、営巣場所に浸水の危険があるため、昨年12月12日に抱卵していた1卵を取り上げふ卵器に移したところ、順調にふ化しました。



生後1日目のハワイガンのヒナ

§ モモイロペリカン、“鳥の楽園”へ移動

ツル舎で収容していたモモイロペリカンの雌1羽を、1月21日バードケージ“鳥の楽園”へ移動しました。将来は雄1頭を導入して、この広々とした



バードケージ内のモモイロペリカン

“鳥の楽園”で繁殖をはかるために、今回の移動となったものです。長らく1羽だけで収容していたため、楽園内の多数の水鳥に囲まれ、しばらくは落ち着きがありませんでしたが、今では威風堂々の泳ぎとはばたきを見せてくれるようになりました。

◎ お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
- 3月17日(日) サルのお話
- 4月21日(日) キリンのお話
- 5月19日(日) ホッキョクグマのお話
- 時間：午後1時～2時
- 場所：レクチャールーム

◎ テレホンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレホンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。
 電話番号 771-9999

現在の飼育動物数 (平成3年1月31日現在)

哺乳類	13目	97種	387点
鳥類	20目	186種	731点
爬虫類	3目	33種	71点
合計	36目	316種	1189点

休園日のお知らせ
 動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。
 開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。（英文学者）
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。（動物研究家）
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。（動物愛護家）

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

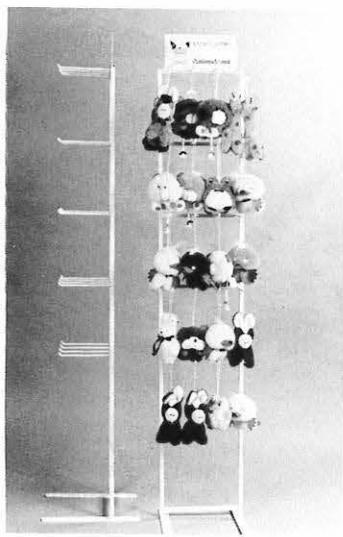


コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

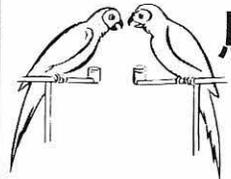


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

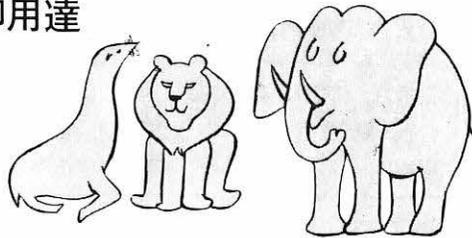
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06)704-8580
FAX: (06)704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

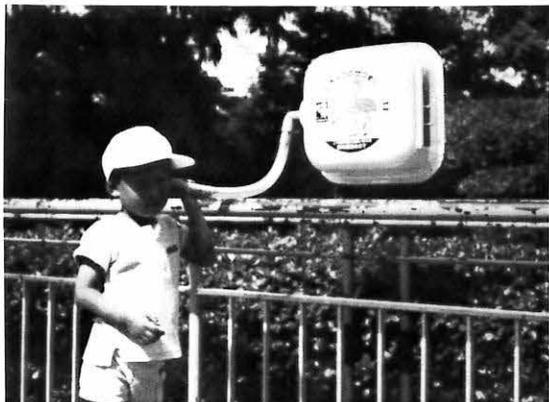
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内の お食事、ご休憩は

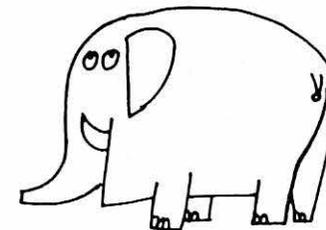
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は...

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444



雪印乳業

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー とっもゼリー



とっもオレンジ



とっもピーチ



とっもキウイフルーツ



とっもストロベリー

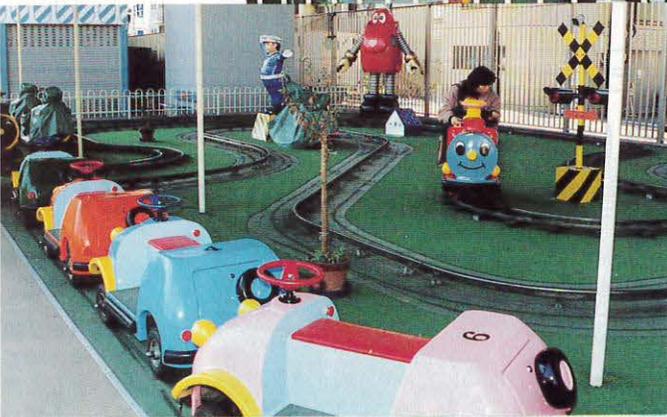


とっもマスカット



とっもパイナップル

一日
愉快地に
たのしめる!!



◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1991年3月10日発行(毎月10日発行)第27巻 第3号 (通巻307号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823

編集委員

(伊東重朗 / 大西史朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 奥上 昇 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭 / 森本委利 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道)